

いぶ少なくなり、源流のようである。小滝、ナメが繰り返す中をなおも登る。

F 8 八トイ状を越える。水も無くなってきた。

最後の二俣を右に入り、すぐヤブこぎ。二〇分程で、踏跡のある尾根に出た。(記・一)

「タイム」クモ沢出合(一二::四五)

↓尾根(一四::三五)

## ワサビ沢右俣

上

一九八六年八月二五日

一二時三〇分、右俣の下降を開始する。この沢もやはりナメである。黒みを帯びた花崗岩で、ちよつと硬

質。このナメはほとんど途切れることなく続き、途中にポツリポツリとナメ状の滝がある。

花の美しい樹木②

ホオノキ(モクレン科)

春、木々の間に白く大きな花をつけ、モクレン科特有の芳香を放っているが、残念ながら、私が摺上川流域を訪れるのは夏であり、ここで花に出会ったことはない。

ホオノキの葉は大きく、長さ二〇〜四〇センチにもなる。風車のように輪状に葉をつけるので、夏でもすぐ判別できる。

材質は柔らかくて、細工しやすいのも大きな特徴である。山形県の有名な笹野一刀彫の材料は、このホオノキである。そのほかに、下駄の材料などにも使われている。

(大西)

帰りの時間が気になるので、どんどんとぼす。特記することもなく、なんなく二俣へ出た。あとはクモ沢を下降して、烏川の長い長い帰路へ

## ワサビ沢左俣

一九八六年八月二五日

朝七時三〇分に、福島を出発。今日は機動力(´)バツグンのバイクである。烏川林道の終点までバイクで行き、そこから烏川を遡行してワサビ沢に入る予定である。

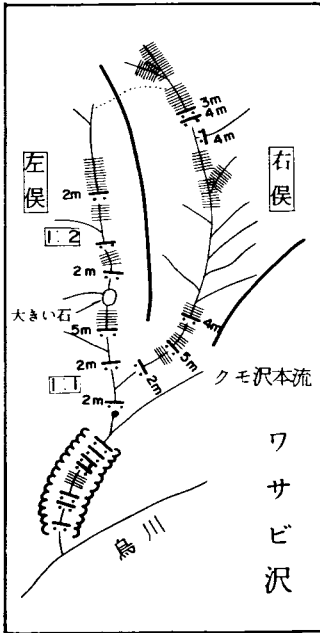
烏川林道は、八月四日の台風一〇号のツメ跡があちこちにあり、林道には落石がゴロゴロ。沢を渡るところは、流れ出た土石でジタジタ。それでも、バイクはスイスイと通りぬけてゆく。しかし、林道終点の約一

とつく。(記・・・)

「タイム」 下降開始(一二:三〇) ↓  
下降終了(一二:三二:一五)

キロ手前で、倒木が林道を塞いで、万事休す。バイクを置いて歩く。

烏川林道終点からは、烏川左岸の歩道を利用して歩くが、途中より道がわからなくなり、本流を遡行する。途中、本流で釣をしている人



に会う。本日の我々の目的を言って先に進めさせてもらおうとすると、「福島登高会」を知っているではないか。そればかりか、この摺上川流域を調査していることまで知っており、「魚はこの沢に居るかね」と聞かれる有様。そんなことで、なんのトラブルもなく、先に進ませてもらう。烏川本流を歩き始めて一時間四分、もう一一時四〇分になっている。やっこのことでクモ沢出合である。